

小学唱歌の世界

中村学園大学教授
国民文化研究会常務理事

山田輝彦

◎ 螢の光

一、
はたるのひかりまどのゆき
書よむつき日かさねつつ
いつしか年もすぎのとなを
あけてぞけさはわかれゆく

二、
とまるもゆくもかぎりとして
かたみにおもふちよろづの
こころのはしをひとことに
さきくとばかりうたふなり

三、
つくしのきはみみちのおく

うみやまとほくへだつとも
そのまごころはへだてなく
ひとつにつくせくのため

四、
千島のおくもおきなほも

やしまのうちのみもりなり
いたらんくにいさをしく
つとめよわがせつつがなく

『小学唱歌集(初)』明治14年11月

◎ 庭の千草

一、
庭の千草も むしのねも
かれてさびしくなりにけり
あゝしらぎく 嗚呼白菊
ひとりおくれて さきにけり

二、
露にたわむや 菊の花
しもおごるや きくの花
あゝあはれ 〳あゝ白菊
人のみさをもかくてこそ

『小学唱歌集(三)』明治17年3月

◎ 故郷の空

夕空はれてあきかぜふき
つきかげ落ちて鈴虫なく
おもへば遠し故郷の空
あゝわが父母 いかにおはす

大和田健樹作詞

◎ 凱旋歌

すみゆく水に 秋萩たれ
玉なす露は すすきにみつ
おもへば似たり故郷の野辺
あゝわが兄弟 たれと遊ぶ

『明治唱歌(一)』明治21年5月

石黒行平作詞
永井建子作曲

道は六百八十里
長門の浦を船出して
早や二年を故郷の
山を遥かに眺むれば
曇り勝ちなる旅の空
晴らさにやならぬ日の本の
御国の為と思ひなば
露より脆き人の身は
ここが命の捨てどころ
身には弾きず剣きず

負へどもつけぬ赤十字
猛き味方の勢ひに
敵の運命窮まりて
脱ぎし青の鋒の尖
串してぞ帰る勝利軍
空の曇りも今日晴れて
一際高き富士の山
峰の白雪消ゆるとも
勲を建てし丈夫の
名譽は永く尽きざらん

『音楽雑誌』明治24年5月

◎ ワシントン

作詞者不明
北村季晴作曲

天はゆるさじ良民の
自由をなみする虐政を
十三州の血はほとぼしり
ここにたちたるワシントン

ロッキーおろし吹荒れて
ハドソン湾に浪さはぎ
剣戟ひびき軍馬嘶く
すは戦の関の聲
勝利を告ぐる喇叭の音
「邦の父」ぞと仰がれて
ミシガン湖上秋月高く
輝く君が そのいさを

『唱歌教科書(四)』明治35年5月